令和７年度

# すくわくプログラム活動報告書

（実施対象：２歳児クラス）

## モニカ矢口渡園

Monica

テーマ

# 自然世界の変化・変質と自分の関係

## 設定理由

戸外に出ると、石や落ち葉を拾い集める姿、拾ったものをポケットの中いっぱいにする姿、砂の感触を楽しむ姿、落ちてくる花びらを見て「きれい」と言葉にする姿など、様々な周りの自然世界を注意深く見て聴いている。このような姿から、より自然のものを身近に感じたり、変化する自然を感じたりできるようにテーマを設定した。
土粘土は、自然の素材であり、様々な変化を身体と心と一緒に五感を通して探究できる素材と考え取り入れた。
公園や神社など様々な自然素材が身近にある環境に保育園があるため、この探究活動への強みと考える。

| | |
|---|---|
| 対象クラス | ２歳児クラス・１１名 |
| 活動のねらい | 様々な形の豊富さや形自身の性質に面白さや興味を持つ |
| 問　　い | 「どんな感じがする」<br>「土粘土について教えて」<br>「どんなふうに変わった」 |
| 活動期間 | 令和７年６月～９月 |
| 活動回数 | 計４回 |

## 活動① 土粘土に興味を持ち、感触を楽しむ

**環境構成**

- 様々な形に成形をして、十分なスペースを確保し配置する。
- 入口から奥の方にシートと土粘土を設置する。
- 扉を開けた際に見える「なんだろう？」の期待感を持ちながら土粘土に近づいていく間を大切にする。
- 照明は落とし落ち着く空間を意識する。また、自然光が織りなす偶然の物語も大切にする。

## 活動② ダイナミックに土粘土と関わる

**環境構成**

- 大きめのブロック状の土粘土を2か所に配置する。
- 指先でじっくり触れる子もいれば、全身を使ってダイナミックに関わる子も現れるよう環境の広がりを意識して設定。
- 土粘土の質量や大きさを感じながら、全身で素材に触れ、重みや変化を味わえるようにした。

## 活動③　さらに土粘土を増やし、体全体を使い関わる

**環境構成**

- ダイナミックに動けるよう土粘土を大きめに形成する。（球体、長方形を重ね階段状にする、長方形のものを合わせてハの字に置く）
- 形の異なる土粘土との間隔を取り、動きやすいようにする。
- 照明は少し落とし、偶然入ってきた日の光・できた影も新しい発見につながるようにする。

## 活動④　とったり、くっつけたり、一つであるがたくさんであるなど、枠にとらわれない変化を味わう

**環境構成**

- 土粘土がもつ形状変化の特性を生かし、土粘土をより柔らかくし扱いやすくした。
- また、子どもたちが千切り取ることがしやすいように切り込みを入れ、大きさの変化や一つのものが複数に分かれるなど土粘土の変化を十分に味わえる形に設定した。
- 友だちと関わりながら触れたり、それぞれの発想が刺激しあったりできるようにと、大型のもの１つにした。

プロジェクト保育１回目

【実施日】令和７年　①６月３日　②６月９日　③６月１３日

【時間】　9:30～10:30

【場所】　ホール

【クラス】　２歳児クラス　参加人数４名

戸外に出ると、石や落ち葉を拾い集める姿、拾ったものをポケットの中いっぱいにする姿、砂の感触を楽しむ姿　落ちてくる花びらを見て「きれい」と言葉にする姿など

様々な周りの自然の世界に注意深く見て聴いている子どもたち。このような姿からより自然のものを身近に感じたり変化する自然を感じたりできるように、「自然の変化・変質」をテーマに探究活動を行うことにした。

また、土粘土は自然な素材の一つであり、様々な変化と体と心と一緒に五感を通して体験できる素材だと思い、今回の探究活動に取り入れた。

【テーマ】　自然世界の変化・変質

【ねらい】　土粘土に興味を持ち、感触を楽しむ

【準備物】　・土粘土２色

・ビニールシート（白地）２枚

・木製板２枚

・制作シート

【環境】　・ホールの窓際に白地のビニールシートを敷く

・絵本棚に制作シートをかけて絵本が見えないようにする

・ビニールシートの上に２か所土粘土を置く（大きめに成型：長方形）

・入口から奥の方にシートと土粘土を設置

・扉を開けた際に見える「なんだろう？」の期待感を持ちながら土粘土に近づいていく間を大切にする

・照明は落とす

適度に明るいよりも落ち着く

また、自然光の作り偶然の物語も大切にする

【子どもの姿】

**●指先を使い土粘土に軌跡を残す**

・力を加えた時にへこみ、こすりつけた時にかすれていることに気付く

・穴をあける→穴を埋める

・足をのせる→足跡に気付く

**●ちぎる　丸める　並べる**

・塊からちぎり、隙間なく並べる

・シートの端まできたら手を止める

→直線に並んだ様々な形達

・手の中で変化する様子を見つめる

・形　温度　手触り

・手の中でこするようにして感触や形の変化を楽しむ

●くっつける　重ねる

・塊の上に重ねる

・側面にくっつける

・「へびさんが〇〇してるの」等と物語と共に触れる

・塊からちぎったものを別の土粘土にくっつける

・壁に土粘土をつけることが楽しい

【振り返り】

初めての環境に緊張する様子が見られたが、保育者の声掛けに反応した児が土粘土に触れ始めると、周りの児も少しずつ触れる姿があった。

「これはなんだろう」といったような表情で指先を使ってそっと触れる姿が見られた。また、保育者の声掛けによって足跡がついていることに気付いたり、シートの上にも足跡や痕跡が残っていたりすることにも気づくことができた

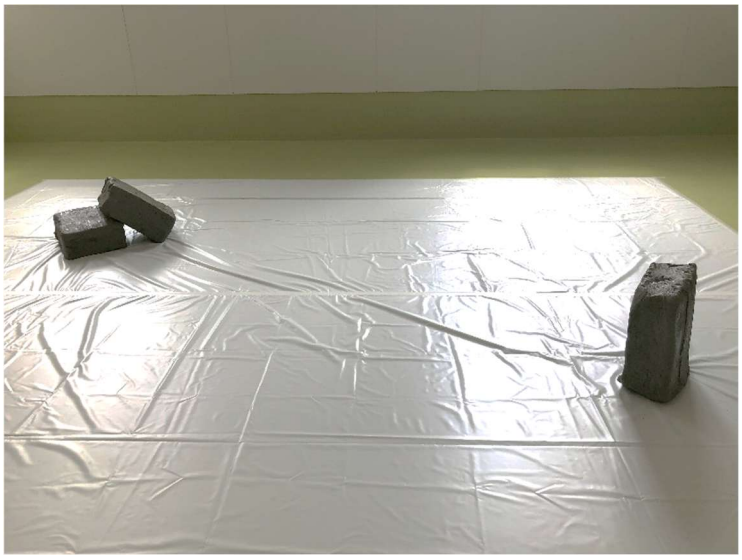
指先を伸ばしてみると、土粘土も一緒に伸びた。その痕跡をなでてみたり、眺めてみたり、再び伸ばして痕跡を増やしたりと触れているうちに発見が増えている様子だった。

全グループが終了した後に再び土粘土に触れる活動を行った。ちぎる　丸める　のほかにちぎったものを壁に向けて投げることを楽しむ姿があったため、大きく体を使いながら土粘土に触れられるように次回の環境設定をした。

子どもたち自ら土粘土に触れ、その特性に気付いたり変化を楽しんだりできるように今後も探究活動を深めていきたい。

プロジェクト保育２回目

【実施日】令和７年　①７月４日　②7 月８日　③７月２４日（机上）
【時間】　9:30～10:30
【場所】　ホール
【クラス】　２歳児クラス　参加人数４名
【テーマ】　自然世界の変化・変質
【ねらい】　ダイナミックに土粘土に触れることを楽しむ。
【準備物】　土粘土３つ、ビニールシート（白地）２枚、木製板２枚、制作シート
【環境】
・ホールの窓際に白地のビニールシートを敷く
・絵本棚に制作シートをかけて絵本が見えないようにする
・ビニールシートの上に２か所土粘土を置く。
（大きめに成型：長方形）



【環境設定のねらい】
・大きめのブロック状の土粘土を２か所に配置し、子どもが自分の興味やペースで関われるようにした。
・指先でじっくり触れる子もいれば、全身を使ってダイナミックに関わる子も現れるよう環境の広がりを意識して設定。
・土粘土の質量や大きさを感じながら、全身で素材に触れ、重みや変化を味わえるようにした。

【子どもの姿】

**●動かす、持ち上げる**

・全身の力を大きく使って重なった土粘土を持ち上げる

・持ち上げようと土粘土をつかむと、手の跡がつく

**●乗る、踏む**

・土粘土の塊の上に乗り、落ちないようにとバランスをとる姿

・足で踏み、感触を確かめる

・足の指を動かし、指先につく感触と土粘土の形状変化

●足につける

・爪先につけてペディキュアに見立てる姿

・足裏につける感触、冷たさ、張り付く感覚

●壁につける

・指先で押し込みながら、土粘土を壁にこすりつける

・下に引っ張る様にこすりつけ、土粘土の軌跡を残す

・壁をキャンパスのようにして繰り返しつけていく

【振り返り】

活動を通して、子どもたちは指先の感触を確かめながら、素材の柔らかさや形の変化に興味をもつ。

感触を楽しむ中で「押す・ちぎる・貼り付ける」といった動きを一定の場所で繰り返し楽しみ、素材に働きかける力の加減や反応を感じ取る姿が見られた。

今後は指先の操作だけでなく、土粘土の重さや大きさを感じながら、より全身を使って関われるような環境を設定していきたい。素材に触れる経験を通して、感触の違いや変化への気づきを深め、身体全体で表現する楽しさへのつなげていけるよう援助していく。

プロジェクト保育３回目

【実施日】　令和７年　①8 月５日（2 グループ）　②8 月８日

【時間】　9:30～10:30

【場所】　ホール

【クラス】　２歳児クラス　参加人数４名

これまで、指先を使って土粘土に触れる姿が多く見られた。指先だけでなく全身を使って関われるように今回の設定をした。

（2 回目以降にも土粘土に触れる機会を設ける。ちぎって床や壁に貼り付ける姿やこねるように触れる姿があった。また、土粘土の上に乗ったり、ジャンプをしたりする姿も見られた。）

【テーマ】　自然世界の変化・変質

【ねらい】　全身を使ってダイナミックに触れることを楽しむ。

【準備物】　土粘土２色、ビニールシート（白地）２枚、木製板２枚、制作シート

【環境】　・ホールの窓際に白地のビニールシートを敷く

・絵本棚に制作シートをかけて絵本が見えないようにする

・ビニールシートの上に３種の形をした粘土を置く

（球体、長方形を３段に重ねる、長方形を重ね合わせる）

・ダイナミックに動けるよう土粘土を大きめに形成する。

・形の異なる土粘土との間隔を取り、動きやすいようにする。

・照明は少し落とし、偶然入ってきた日の光・できた影も新しい発見につながるようにする。

【子どもの姿】

**●持ち上げようとする　転がそうとする**

・しゃがんだ姿勢

・両手で持ち、立ち上がる

・手のひらを使って両手で押す

→動かないと、身体全体も使いながら押す

・手をつけた時にできた跡に気付く

**●乗る　座る**

・膝を曲げ、両手でバランスを取りながら乗る

→両足がつき、乗れた際には立ち上がる

・腰かけるように座る

・身体を土粘土に沿うようにして乗る

・乗った体勢のまま土粘土をちぎって取る

→その後ちぎった土粘土を並べる

●ちぎる　穴を開ける

・指先を使って土粘土に触れる

・しゃがんだ姿勢でいくつも穴を開ける

→開けた所を指で伸ばす

→穴の形が変わることに気付く

・立ったまま腕を伸ばして土粘土に触れる

→手のひらから次第に指先で触れる

●座ったまま触れる

・球体の土粘土に手を伸ばす

→一本指でなでるように土粘土をとる

・指先についた土粘土を自分の身体にくっつける

→何度も繰り返し行う

・しばらくすると自分の近くまで土粘土を転がす

【振り返り】

子どもたち自ら興味をもって土粘土に触れる。

段差になっている土粘土では、【登る】【跳ぶ】を繰り返しする姿があった。「かいだんみたい」と話す姿も見られた。登っている際に土粘土の柔らかさを感じ、バランスを崩す様子もあった。そこから土粘土を加えて固めようとする姿もあった。

球体では、【ちぎる】【重ねる】【穴を開ける】を繰り返しする。その過程で感触や形状変化を楽しむ姿が見られた。転がすと面が変わることにも気付く。

全身を使ってダイナミックに触れながら、手先を使った繊細な動きを楽しむ姿が多く見られた。

「つちねんどのこえがする」と話す姿もあった。自ら体を使いながら考え、土粘土と対話するように触れている様子が見られた。

土粘土の形状が変化する楽しさや、友だちと同じ空間で過ごす心地よさも味わっていけるように今後も計画をしていきたい。

プロジェクト保育４回目

【実施日】令和７年　①9 月２日（２グループ）　②９月１１日

【時間】　9:30～10:30

【場所】　ホール

【クラス】　２歳児クラス　参加人数４名

【テーマ】　自然世界の変化・変質

【ねらい】　大型の土粘土を分けたり、つけたりしながら土粘土の感触や変化を楽しむ

【準備物】　大型土粘土、ビニールシート（白地）２枚、木製板２枚、制作シート

【環境】

・ホールの窓際に白地のビニールシートを敷く

・絵本棚に制作シートをかけて絵本が見えないようにする

・ビニールシートの中心に土粘土を置く。

【環境構成のねらい】

・３回目以降の活動では、土粘土と石を掛け合わせ活動した。それぞれの素材が持つ特性を感じながら組み合わせて楽しむ姿が見られたが、同時に土粘土をブロック遊びのように関わる姿が見られた。

・土粘土がもつ形状変化の特性を生かし、前回以上に土粘土を柔らかくし扱いやすくした。

また、子どもたちが手に取りやすいように切り分け、土粘土の変化を十分に楽しめる形に設定した。

・友だちと関わりながら触れたり、それぞれの発想が刺激しあったりできるようにと、大型のもの１つにした。

【子どもの姿】

・一目見て「枯れてる」との声

・興味を持ち、すぐに触れようとしている

**●もぎとる**

・広がった土粘土を取っていく

→中心部分がつながっているため、全身の力を大きく使いながら引っ張るように取る

・取った時には「とれた」と喜ぶ姿

・割かれている土粘土すべてを取ろうとしている

・もっと奥まで取ろうという気持ちからか、中心部分を掘り起こす

**●乗る**

・土粘土の上に乗って楽しんだ経験からか、乗って感触や高さを確かめようとする

・乗りながら掴んで取ろうとする→全身のバランスを保ちながら

**●集める**

・土粘土を取っていく過程で零れ落ちた土粘土たちを一か所に集める

・落ちないようにと、慎重にのせながら押し込んでつける

・「ふねだよ」と見立てる

**●穴を空ける**

・指先で無数に穴を空けていく

「アリさんのおうちだよ」

「帰れるようにあけなきゃ」

と想像を広げる姿

・穴が空く時の感触や形状変化の面白さ

**●積み重ねる**

・ちぎった土粘土を一つの塊の上に重ねていく

・ちぎり取ってなくなった部分を埋め合わすようにつけていき、落ちそうなときには押し込む

・友だちとつける姿

→自然な共同

**●道具にする**

・棒状に丸め固めていく

・土粘土の上に置き、めん棒のように転がしながら、土粘土を平らにしていく

・土粘土をいくつも平らに仕上げていく

【振り返り】

今回の活動では、土粘土を柔らかい状態に調節して提示した。柔らかい素材は、子どもの「触れたい」という衝動を自然に引き出し、ちぎる・こねるという身体的な対話をいっそう深めるきっかけになっている。

また、切り込みを入れたことで、素材そのものが語りかけるような存在となり、子どもが迷いなく近づいていく姿が印象的だった。

土粘土を一つの大きな素材として用意したことで、自然と友だちと関わりながら触れる姿が見られ、素材を介した関わりが広がることにつながっていた。

素材の提示の仕方一つで子ども同士の距離や遊び方が変化していく。

今後も、素材の質感・量・提示方法など、環境そのものが子どもに語りかけるように工夫し、子どもたちの興味や表現がゆっくりと深まっていく探究の場を作り続けていきたい。

# 土粘土の可塑性

水を加える

乾燥させる

泥状になる

→流動性・不定形

→糊としての役割

硬質化

→チョークとして

→泥と組み合わせてつなげる

水分量・形状・大きさ

そのどれかが少し変わるだけで、土粘土はまるで別の素材かのように子どもたちに語りかけてくる。

柔らかさが増せば、指先の軌跡が流れになり、硬さがあれば力強い痕跡が残る。

小さなかけらは“触れてみたい”を引き出し、大きな塊は全身を使った関わりへと誘う。

**使用物**　土粘土(2色)｜たらい｜洗面器｜タオル｜シート｜養生テープ｜木製板｜制作シート｜テグス

## 全体の振り返り

**テーマ：自然世界の変化・変質と自分の関係**

土粘土に触れる経験を重ねる中で、子ども達の素材との関係は大きく変化していった。はじめは、慎重に指先で触れていた姿から回を重ねるごとに全身で素材に関わろうとする姿へ広がっていった。押す、運ぶといったダイナミックな関わりとつまむ、ちぎるといった繊細な関わりが共存し、それぞれが心地よい関わり方を見出している。切る、取る、くっつけるといった変化を繰り返す中で、形が変わり続ける面白さを味わう様子も見られた。友だちと同じ素材を囲みながら互いの発想に刺激を受ける場面が増え、素材を介した関わりが広がっている。継続的な関わりを通して土粘土への親しみが深まり、多様な表現や見立ての芽が育まれている。

終

**株式会社モニカ**

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

**モニカ矢口渡園**

〒144-0054
東京都大田区新蒲田2-10-5
TEL:03-6424-5833
FAX:03-6424-5875